

1/4/1 (Item 1 from file: 351) Links

Derwent WPI

(c) 2006 The Thomson Corp. All rights reserved.

FN- DIALOG(R) File 351:Derwent WPI|
CZ- (c) 2006 The Thomson Corp. All rights reserved.|
AA- 1986-229927/198635|
XR- <XRAM> C86-099260|
TI- Make-up cosmetic with superior water resistance - contg. organosilicone
resin, volatile silicone oil and powder|
PA- SHINETSU CHEM IND CO LTD (SHIE); SHISEIDO CO LTD (SHIS)|
NC- 001|
NP- 002|
PN- JP 61161211 A 19860721 JP 852857 A 19850111 198635 B|
PN- JP 94072085 B2 19940914 JP 852857 A 19850111 199435|
AN- <LOCAL> JP 852857 A 19850111; JP 852857 A 19850111|
AN- <PR> JP 852857 A 19850111|
FD- JP 61161211 A|
FD- JP 94072085 B2 A61K-007/00 Based on patent JP 61161211|
LA- JP 61161211(5); JP 94072085(5)|
AB- <BASIC> JP 61161211 A

Cosmetic contg. (A) 1-70 wt.% organosilicone resin of general formula (A) (, (B) 10-98 wt.% volatile silicone oil of general formula (B), and (C) 0.5-55 wt.% powder where (A) is organosilicone resin comprising structural unit expressed by mean structural formula $R SiO_{(4-n)/2}$ (A) (where R is 1-6C hydrocarbon gp. or phenyl gp.; n is 1.0-1.8), (B) is at least one kind of volatile silicone oil expressed by the formula (I) (where n is 0-5), or (II) (where n is an integer 3-7). A comprises units comprising R_2SiO unit, $RSiO_{3/2}$ unit, $R_3SiO_{1/2}$ unit, and SiO_2 unit with ca. 1500-10,000 mean mol.wt. (A) is soluble in benzene and prepd., for example, by adding cpd. expressed by R_2SiX_2 , $RSiX_3$ and SiX_4 (where X is hydrolysable gp. e.g. Cl, Br, F, alkoxy, or acyloxy) to solvent (e.g. toluene), then hydrolysing and condensing with sufficient water, removing aq. phase and Neutralising remaining resinous substance with $NaHCO_3$, etc., and distilling solvent finally. Suitable amt. of (A) in cosmetic comps. is 1-70 wt.%.

(B) is linear or cyclic silicone oil, specifically, hexamethyl disiloxane, octamethyl trisiloxane, decamethyl tetrasiloxane, hexamethyl cyclo trisiloxane, decamethyl cyclo pentasiloxane, etc. Suitable proportion of (B) in a compsn. is 10-99 wt.%.

USE/ADVANTAGE - A make-up cosmetic with superior water resistance, resistance to sweat and oil, superior durability with good feeling and spreadability is obtd.. (5pp Dwg.No.0/0)|

DE- <TITLE TERMS> UP; COSMETIC; SUPERIOR; WATER; RESISTANCE; CONTAIN;
ORGANO; SILICONE; RESIN; VOLATILE; SILICONE; OIL; POWDER|
DC- A26; A60; D21; E11|
IC- <ADDITIONAL> A61K-007/02|
MC- <CPI> A06-A00E3; A07-A03; A12-V04C; D08-B01; E05-E01; E05-E02|
FS- CPI||

【公報種別】特許法（平成6年法律第116号による改正前。）第64条の規定による補正

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成10年（1998）12月2日

【公告番号】特公平6—72085

【公告日】平成6年（1994）9月14日

【年通号数】特許公報6—1803

【出願番号】特願昭60—2857

【特許番号】2134109

【国際特許分類第6版】

A61K 7/00 E

J

7/02 Z

【手続補正書】

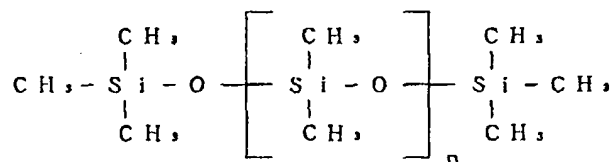
1 「特許請求の範囲」の項を「1 下記（A）で示される有機シリコーン樹脂1～70重量%、下記（B）で示される揮発性シリコーン油10～98重量%および粉末0.5～55重量%を含有し、揮発性シリコーン油（B）が皮膚上で揮発し、有機シリコーン樹脂（A）が塗布面上で樹脂被膜を形成することを特徴とするメーキャップ化粧料。

（A）

（Rは炭素数1～8までの炭化水素基またはフェニル基を表し、nは1.0～1.8までの値を表す）の単位からなり約1500～10000までの平均分子量を有する有機シリコーン樹脂。

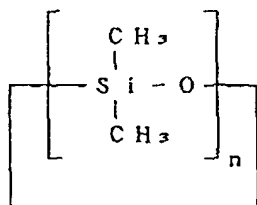
（B） 一般式（I）および一般式（II）で表される揮発性シリコーン油の少なくとも1種。

一般式（I）



（式中nは0～5の整数を示すと補正する。）

一般式（II）



（式中nは3～7の整数を示す。）

2 第4欄28行～31行「すなわち……である。」を「すなわち、本発明は、下記（A）で示される有機シリコーン樹脂1～70重量%、下記（B）で示される揮発性シリコーン油10～98重量%および粉末0.5～55重量%を含有し、揮発性シリコーン油（B）が皮膚上で揮発し、有機シリコーン樹脂（A）が塗布面上で樹脂被膜を形成することを特徴とするメーキャップ化粧料である。」と補正する。

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許出願公告番号

特公平6-72085

(24)(44)公告日 平成6年(1994)9月14日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
A 61 K 7/00	E	9164-4C		
	J	9164-4C		
7/02	Z	9164-4C		

発明の数1(全5頁)

(21)出願番号	特願昭60-2857	(71)出願人	999999999 株式会社資生堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号
(22)出願日	昭和60年(1985)1月11日	(71)出願人	999999999 信越化学工業株式会社 東京都千代田区大手町2丁目6番1号
(65)公開番号	特開昭61-161211	(72)発明者	奥貫 裕 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内
(43)公開日	昭和61年(1986)7月21日	(72)発明者	石渡 正昭 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内
		(72)発明者	池田 敏秀 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内

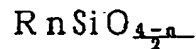
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 メーキャップ化粧料

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下記(A)で示される有機シリコーン樹脂1~70重量%、下記(B)で示される揮発性シリコーン油10~98重量%および粉末0.5~55重量%を含有することを特徴とするメーキャップ化粧料。

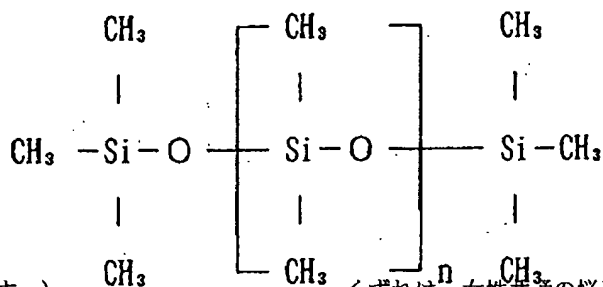
(A) 平均式



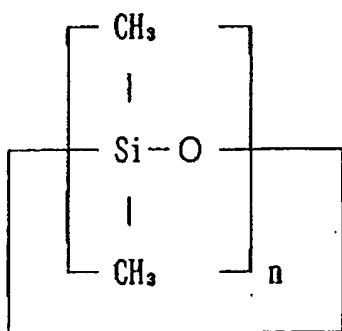
(Rは炭素数1~6までの炭化水素またはフェニル基を表し、nは1.0~1.8までの値を表す)の単位からなり約1500~10000までの平均分子量を有する有機シリコーン樹脂。

(B) 一般式(I)および一般式(II)で表される揮発性シリコーン油の少なくとも1種。

一般式(I)



(式中nは0～5の整数を示す。)
一般式 (II)



(式中nは3～7の整数を示す。)

【発明の詳細な説明】

〔産業上の利用分野〕

本発明はメーキャップ化粧料、さらに詳しくは耐水性、耐汗性および耐油性良好で、化粧もちに優れたメーキャップ化粧料に関する。

本発明でいうメーキャップ化粧料は通常のメーキャップ化粧料に加えてその下地に用いる化粧下地をも包含する。

〔従来の技術〕

メーキャップ化粧料は、粉末と油分とを配合してなる固形ファンデーション、固形アイシャドー油性ファンデーション、口紅など種々の形態と種類がある。また乳化系をベースとした乳化ファンデーションなどもあるが、いずれもタルク、カオリン、酸化鉄、酸化チタン、チタン・マイカ系パール顔料などの無機粉末およびナイロン、セルロース、タール顔料などの有機顔料を多く含むことが特徴である。

これらのメーキャップ化粧料は、皮脂や汗あるいはほかの化粧料の油分などによって、よれたり、流れたり化粧くずれを生じる。とくに夏季の高温多湿条件下の化粧

くずれは、女性共通の悩みとして改良が望まれていた。耐水性、耐油性良好なメーキャップ化粧料としてはエチルヒドロキシエチルセルロースを皮膜剤として用いる技術(特開昭53-62994号公報)などが知られているが、実際の使用における化粧もちの点でまだ満足できるものではない。

一方、化粧下地はメーキャップ化粧料ののりをよくしたり仕上りをきれいにする目的で使用されるが、メーキャップ化粧料の化粧もちを考慮しているものは少ない。

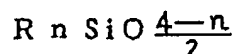
〔発明が解決しようとする問題点〕

本発明者らは、このような事情にかんがみ、化粧くずれ防止効果に優れたメーキャップ化粧料を得ることを目的に鋭意研究を行った結果、特定の有機シリコーン樹脂を揮発性シリコーン油とともに用い、これに粉末を加えたならば、のびがよく、さっぱりとした使用感を有しかつ化粧くずれ防止効果良好なメーキャップ化粧料が得られることを見出し、この知見にもとづいて本発明を完成するに至った。

〔問題点を解決するための手段〕

すなわち、本発明は、下記(A)で示される有機シリコーン樹脂1～70重量%、下記(B)で示される揮発性シリコーン油10～98重量%および粉末0.5～55重量%を含むことを特徴とするメーキャップ化粧料である。

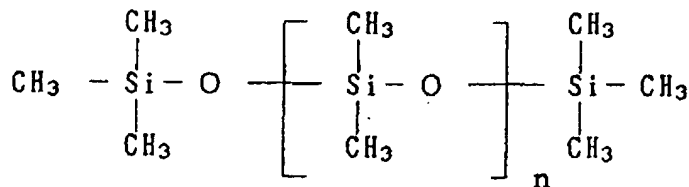
(A) 平均式



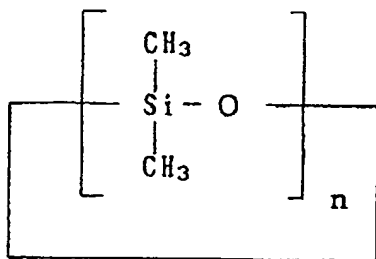
(Rは炭素数1～6までの炭化水素基またはフェニル基を表し、nは1.0～1.8までの値を表す)の単位からなり約1500～10000までの平均分子量を有する有機シリコーン樹脂。

(B) 一般式(I)および一般式(II)で表される揮発性シリコーン油の少なくとも一種。

一般式 (I)

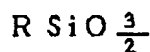


(式中nは0～5の整数を示す。)
一般式 (II)

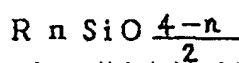


(式中nは3～7の整数を示す。)

本発明で用いる上記(A)で示される有機シリコーン樹脂は R_3SiO 単位、 R_2SiO 単位、



単位および SiO_2 単位のうちの適当な組合せからなり、その割合は平均式



(nは1.0から1.8までの値を表す)を満足するように選ばれ、約1500～10000までの平均分子量を有することが望ましい。

上記有機シリコーン樹脂はベンゼンに可溶であり、各種の方法で製造し得る。一例をあげると、一般式 R_3SiX 、 R_2SiX_2 、 $RSiX_3$ および SiX_4 (Xは加水分解し得る基、たとえば塩素、臭素、弗素、アルコキシ、たとえばメトキシ、エトキシなどの基、アシロキシ基を表す)で示される化合物を、目的とする樹脂組成に応じてトルエン、ベンゼン、キシレンなどのとき適当な溶媒に添加し、次いでこの溶媒を適当な酸性溶媒中における希望する加水分解および共縮合を得るに充分な量の水に加える。こうして得られた二相系から水相を除去し、残留する樹脂状物質を重炭酸ナトリウムあるいは他のアルカリ性物質の充分量を用いて中和し、溶媒を留去すれば目的の有機シリコーン樹脂が得られる。

本発明における有機シリコーン樹脂の配合量は皮膚化粧品全量中の1～70重量%である。

また、本発明で用いる上記一般式(I)または一般式(II)で表される鎖状シリコーン油および環状シリコーン油はいずれも揮発性であって上記有機シリコーン樹脂に対して溶媒となり得る。具体例をあげると、たとえば、ヘキサメチルジシロキサン、オクタメチルトリシロキサン、デカメチルトetraシロキサン、ヘキサデカメチルヘプタシロキサン、ヘキサメチルシクロトリシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、テトラデカメチルシクロヘプタシロキサンなどである。

配合量は、皮膚化粧品全量中の10～99重量%である。

また本発明で用いる粉末は一般にメーキャップ化粧料に用いられる粉末であって、たとえば、タルク、マイカ、カオリン、炭酸カルシウム、亜鉛華、二酸化チタン、酸化鉄、黄酸化鉄、黒酸化鉄、群青、紺青、水酸化クロム、オキシ塩化ビスマス、チタン-マイカ系パール顔料

などの無機粉末類、および赤色201号、赤色202号、黄色5号アルミニウムレーキ、青色1号アルミニウムレーキなどの有機粉末類、ナイロン、セルロース、ポリエチレンなどの樹脂粉末類、各種金属石鹸などを例示することができる。

配合量はメーキャップ化粧料全量中の0.5～55重量%である。

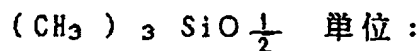
当然のことながら、上記必須成分に加えて、水性成分および適切な界面活性剤を配合して乳化技術を駆使することによって、化粧くずれ防止効果を有したままで油中水型あるいは水中油型の乳化型メーキャップ化粧料にすることも可能である。

本発明のメーキャップ化粧料には上記の他に、目的に応じて本発明の効果を損なわない量的、質的範囲内で、さらに油脂類、ロウ類、薬剤、香料あるいは他の揮発性成分等を配合しても良い。

以下、実施例により本発明をさらに詳細に説明する。本発明は、これらによって限定されるものではない。配合量は全て重量%である。

実施例1 油性ファンデーション

①カオリン	25.0
②二酸化チタン	15.0
③酸化鉄	3.0
④マイクロクリスタリンワックス	4.0
⑤流動パラフィン	5.0
⑥ソルビタンセスキオレート	1.0
⑦約3000の分子量を有し、かつ	



SiO_2 単位=1.5:1からなる

平均式 $(CH_3)_{1.8}SiO_{1.1}$ で表

される有機シリコーン樹脂 2.0

⑧オクタメチルシクロテトラシロキサン 残余

⑨香料 適量

④～⑧を70～80℃で攪拌溶解した後、①～③を加えて分散する。脱気後⑨を加えて所定の容器に充填して油性ファンデーションを得た。

実施例1の油性ファンデーションは耐水性、耐油性、耐汗性に優れ化粧くずれの少ないメーキャップ化粧料であり、使用感もさっぱりしたものであった。

比較例1 油性ファンデーション

①カオリン	25.0
②二酸化チタン	15.0
③酸化鉄	3.0
④マイクロクリスタリンワックス	4.0
⑤流動パラフィン	5.0
⑥ソルビタンセスキオレート	1.0
⑦エチルヒドロキシエチルセルロース	10.0
⑧エタノール	10.0
⑨アイソパー(登録商標)E	

(沸点116~143℃)

残余

()香料

適量

⑦、⑧を70~80℃で攪拌溶解した後、⑨に分散させ、④~⑥を加えて加熱溶解する。①~③を加えて均一に分散し、脱気後()を加えて攪拌した後、所定の容器に充填して油性ファンデーションを得た。

実施例1、比較例1について以下の評価を行った。

水またはスクワレンをしみ込ませた濾紙を用意し、これに実施例1または比較例1を塗布して乾燥させたナイロン板を圧着して10回の上下動を行う。上下動終了後のナイロン板から濾紙上への資料の転写量を色の濃さで肉眼判定する。

[評点]

1 全く転写しない。

2 わずかに転写する。

3 転写が著しい。

結果は合計5回の実験測定の平均値で表1に示す。

表 1

	水	スクワレン
実施例1	1.0	1.0
比較例1	2.2	2.8

従来のもちのよい油性ファンデーションである比較例1に比べても、実施例1は水やスクワレンに落ちにくい、すなわち、耐水性および耐油性良好な化粧もちに優れたメーキャップ化粧料であることがわかる。

実施例2 液状口紅

①ジメチルシロキサン0.65cs (n=0) 20.0

②ジメチルシロキサン2.0cs (n=3) 20.0

③約5000の分子量を有し、かつ

$(\text{CH}_3)_3\text{SiO}\frac{1}{2}$ 単位 :

SiO₂単位=0.5:1からなる

平均式(CH₃)_{1.0}SiO_{1.5}で表

される有機シリコン樹脂 40.0

④グリセリルトリオステアレート 10.0

⑤赤色226号 10.0

⑥香料 適量

①~③を50~60℃で攪拌溶解し、別に④と⑤をローラー処理したものを加えて分散する。脱気後⑥を加えて液状口紅を得た。

実施例2の液状口紅は耐水性、耐油性、耐汗性に優れ、またコップなどへの付着による化粧くずれも少ないものであった。使用感もさっぱりしていた。

実施例3 マスカラ

①ジメチルシロキサン1.5cs n=2) 4.5

②オクタメチルシクロテトラシロキサン 10.0

③約2000の分子量を有し、かつ

$(\text{CH}_3)_3\text{SiO}\frac{1}{2}$ 単位 :

SiO₂単位=0.8:1からなる

平均式(CH₃)_{1.33}SiO_{1.34}で表

される有機シリコン樹脂 70.0

④酸化鉄黒 15.0

⑤P. O. E. (20モル) ソルビタン

モノラウレート 0.5

⑥香料 適量

①~③を70~80℃で攪拌溶解後、④および⑤を添加して分散する。脱気後⑥を加えてマスカラを得た。

実施例3のマスカラは涙などによる化粧くずれも少なく、まぶたへの付着もないマスカラであった。

実施例4 化粧下地

①カオリン 10.0

②二酸化チタン 5.0

③酸化鉄赤 0.3

④酸化鉄黄 0.2

⑤メチルフェニルポリシロキサン (n=100) 20.0

⑥ジメチルシロキサン2cs (n=3) 10.0

⑦固形パラフィン 5.0

⑧マイクロクリスタリンワックス 4.0

⑨ソルビタンセスキオレート 1.0

()約3000の分子量を有し、かつ

$(\text{CH}_3)_3\text{SiO}\frac{1}{2}$ 単位 :

(C₆H₅)₂SiO単位 :

$(\text{C}_6\text{H}_5)_2\text{SiO}\frac{3}{2}$ 単位 :

SiO₂単位=0.9:0.1:0.2:1

からなる平均式

(CH₃)_{1.23}(C₆H₅)_{0.18}SiO_{1.30}

で表される有機シリコン樹脂 2.0

()デカメチルシクロペンタシロキサン 24.5

()ヘキサメチルシクロトリシロキサン 0.5

()香料 適量

④~⑥を混合粉碎する。別に⑤~()を70~80℃で混合溶解する。両者を攪拌混合し、脱気後()を加えて化粧下地を得た。

実施例4の化粧下地は、このものの上に重ねるメーキャップ化粧料ののりをよくし、化粧くずれも抑える効果を有していた。

実施例5 ハイライター

①デカメチルシクロペンタシロキサン 95.0

②約8000の分子量を有し、かつ

$(\text{C}_6\text{H}_5)_2\text{SiO}\frac{3}{2}$ 単位 :

(CH₃)₂SiO単位=

5.67:1からなる平均式

$(\text{CH}_3)_{0.30}(\text{C}_6\text{H}_5)_{0.85}\text{SiO}_{1.43}$
で表される有機シリコン樹脂 4.5
③チタン-マイカ系パール顔料 0.5
④香料 適量
①および②を加熱溶解し、③④を加え分散してハイライ
ターを得た。
実施例 5 は化粧くずれが少なく、さっぱりした使用感の

ハイライターであった。

〔発明の効果〕

本発明のメークアップ化粧料は耐水性、耐汗性および耐
油性良好で化粧料もちに優れ化粧くずれが少ないメーキ
アップ化粧料である。さらに、使用感触も、のびがよ
く、さっぱりしていて優れている。

フロントページの続き

(72)発明者 難波 富幸
神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂研究所内
(72)発明者 黛 哲也
東京都千代田区大手町2-6-1 信越化
学工業株式会社内

(72)発明者 森 滋
群馬県安中市磯部2-13-1 信越化学工
業株式会社シリコン電子材料技術研究所
内
審査官 松浦 新司

(56)参考文献 特開 昭61-18708 (J P, A)